



泥に苦戦しながらも懸命に田植えに取り組み東京家政大の学生たち。4日、新潟市秋葉区矢代田

生産現場の苦労体感

東京家政大 女子大生が田植え

管理栄養士を目指す東京家政大の女子学生十三人が四日、コメの生産過程を学ぼうと、新潟市秋葉区矢代田の田んぼで田植えを体験

——新潟——

した。学生はもんぺや笠を身に着け、泥だらけになりながら楽しそうに取り組んでいた。

植え付けたのは、昭和初期までコメの主力品種だった「白藤」。同市の酒造会社が新商品の開発を目指し、三年前から地元生産者などと連携、復活に取り組んでいる。今年から始める本格栽培に、同大の教授が協力しているため、学生も田植に参加した。

学生のほとんどが、田植えは初挑戦。生産者から「背丈が伸びやすい種類。真つすぐ植えてください」と説明を受け、足を取られながらも一本一本の苗を丁寧に植えていった。

四年生の箕輪実幸さん（こ）は「泥の感触が気持ちよかった。生産の現場を知ることができたのは大きな経験だし、食について子どもたちを指導するときに役立つと思う」と、満足そうだった。

学生は今後、コメの収穫や酒の仕込みも体験する予定だ。

挑心込め 力込め